

★2面は「伊達市環境放射線モニタリング3000日の記録」特集

第34号

2つの助成金が募集中! 「住まいとコミュニティづくり活動助成」は年明け8日 「子どもの学び支援活動助成」は年明け7日締め切り!

年明けに締め切られる2つの助成金が現在応募受付中です。ひとつは「住まいとコミュニティづくり活動助成」。もうひとつは「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」。どちらもすでに応募受付が始まっていて締め切りは「住まいとコミュニティ～」が1月8日(水)「子どもの学び～」が1月7日(火)です。以下詳しくご紹介します。

1件 120万円以内で「地域・コミュニティ活動」で10件「住まい活動助成」で10件を選定予定!

- ・上のタイトルが「ハウジング&コミュニティ財団」の「住まいとコミュニティづくり活動助成」概要です。
- ・助成対象は「①地域づくりやコミュニティを基軸にした広範な市民活動」と「②住まいや住宅地、団地、マンションなど多様な住宅問題に取り組む活動」の2つで期間は2020年4月1日～2021年3月31日までの1年間。法人格のない任意団体でも代表責任者が明確で、意思決定の仕組みが確立し、会計処理が適切ならOKです。所定の申込用紙を財団のHP (<http://www.hc-zaidan.or.jp/>) からダウンロードし①申込書(NO1～NO4)(必須)の他に②ビジュアル資料(A3用紙を横にして、応募する活動内容をビジュアルに表現し主要メンバーの集合写真も貼付)(必須)③これまでの活動実績と2018年度の会計報告(任意)を必ず郵送してください。

複雑化する「子どもの課題」に「中長期的視点」で取り組む団体を応援! 最大3年間 900万円!

- ・「公益財団法人ベネッセ子ども基金」による「最大3年間900万円」の助成です。対象事業は「A:既存事業強化」もしくは「B:新規事業」。「既存事業強化」では「強化テーマ」として「①子どもの学びの質の向上」「②担い手の人材育成」「③広報及び支援者獲得やファンドレイジングの強化」「④業務の改善や生産性の向上」「⑤異なる地域や分野との連携やネットワークづくり」と明示「テーマを明確にした計画作成」を求めています。助成対象の法人格は問いませんが個人名義の口座振り込みはできないとしています。応募するには財団HP (<https://benesse-kodomokikin.or.jp>) にアクセスして申請書をダウンロードしてください。申請書ダウンロードのページには「申請書見本」もあります。「記入上の留意点」「記入例」も丁寧に印字されていますから参考にするとよいでしょう。

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
このまちと住まいの「いい」を応援します
令和2(2020)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成応募要項

助成期間: 令和2(2020)年4月1日(水)～令和3(2021)年3月31日(水)
助成金額: 1件あたり120万円以内
応募期間: 令和元(2019)年11月11日(月)～令和2(2020)年1月8日(水)必着

■左の写真の応募要項は「ハウジングアンドコミュニティ財団」のホームページからダウンロードできます ■実績報告と会計報告は任意ですが「ビジュアル資料」は必須ですからご注意ください ■ホームページには前年度の助成団体の活動報告もあり参考になります。

経済的困難を抱える
子どもの学び支援活動助成

複雑化する子どもの課題に対して、
中長期視点で取り組む団体を応援します。

最大
3年間
900万円

地域によって多様な子どもの課題に対し、支援を継続可能なものにしていくためには、長い学習者の事業寿命の短化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期的な視点が必要とされています。最大3か年の支援を通して、中長期的視点を持った自立的な事業継続・発展も目指す団体も応援します。

活動テーマ例

- 習熟度別授業(特に少人数授業)
- 専任、非常勤と連携し、授業
- 異業種と連携して、実践的学習
- 学習支援プログラムを推進し、学習成果を可視化する
- 異業種と連携して、実践的学習
- 異業種と連携して、実践的学習

3か年の活動イメージ

1年目: 地域課題の調査・分析、支援の開始
2年目: 支援の継続・拡大、評価・改善
3年目: 自立した事業の継続・発展

募集期間: 2019年11月26日(火)～2020年1月7日(火)必着

■財団のホームページには「2018年度」助成団体選考結果の報告があり、その中には「採択に至らなかった申請についての傾向」が記述されています。ぜひ参考にするといいのではないのでしょうか。

「NPO法人環境ワーキンググループ伊達」、11月11日に「伊達市環境放射線モニタリング 3000日」を達成し、報告書を発表！

ご存知ですか？「3.11」から8年9か月後の今も伊達市では「5つの環境放射線測定」を続行中

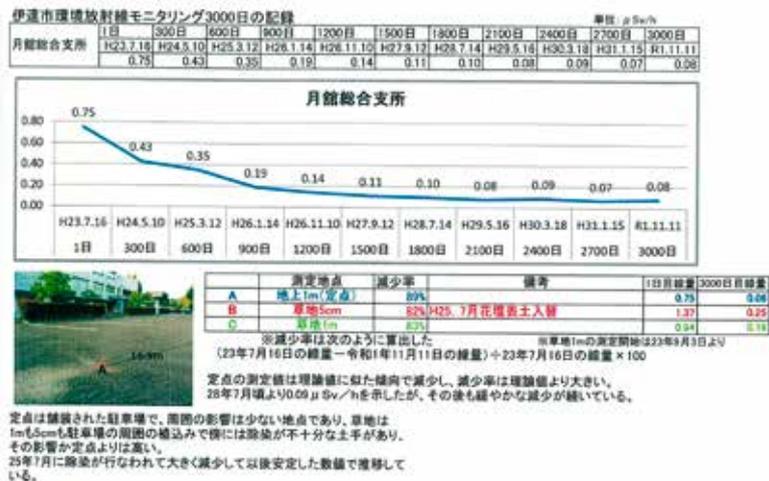
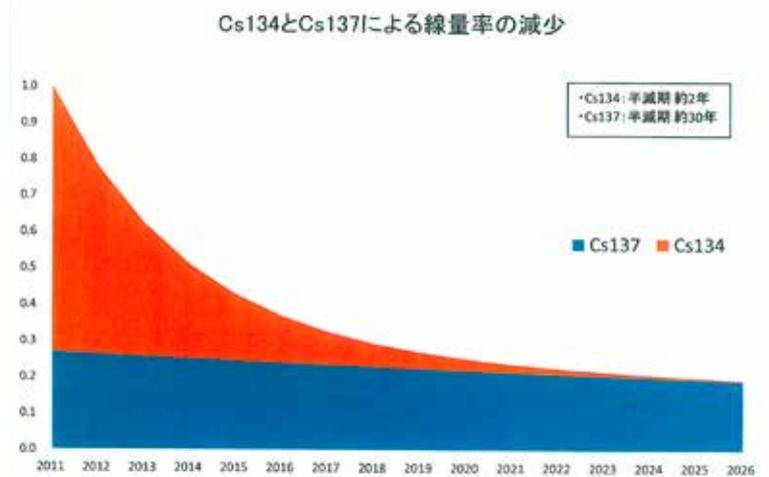
・伊達市のホームページで「放射線量測定」と検索すると「放射線量測定・検査」のページに飛びます。その中の「市内放射線測定」のブロックにある「4つの環境放射線測定」と「伊達市一斉放射線量測定マップ」の5つは現在も続行中の「市内放射線測定作業」。「4つの環境放射線測定」は「市内定点観測地点」「集会施設」「市内幼稚園・保育園」「市内小中学校」の4つで今回「モニタリング 3000日」を達成したのはこの中の「市内定点観測地点の環境放射線測定」でした。

・これを担ってきたのが「NPO法人環境ワーキンググループ伊達」。市民団体が自治体から委託されて環境放射線量を測定する例は世界に見られません。しかも「市内19の定点の放射線量を毎日測定」する前提で平成23年7月16日にスタート、去る11月11日で「連続測定 3000日」を達成したのです。

「連続測定 3000日」を報告書にして発表！線量の減少率が76～93%である経緯が見える化！

・「環境ワーキンググループ伊達」はこの「市内定点観測連続測定 3000日」の記録をまとめ、去る11月30日に報告会を開催してこれを発表しました。A4サイズ横組で本文56ページの力作ですが、これまでの測定活動を評価して連名での学会発表もしてくださった、大阪産業大学・藤長愛一郎教授と神戸大学・村山留美子教授の特別寄稿も掲載されています。

・その表紙と中身の一部が右の写真です。真ん中のセシウム134と137のグラフでは、半減期約2年の134は8年間で16分の1に減少。今の線量の主な物質は半減期30年の137だから今後の減少は緩やかになると推測しています。その下のグラフは最新測定値が0.08 μ Svと19地点で最も低い「月館総合支所」の3000日の推移。大きく減少していることが一目でわかります。なお「環境ワーキンググループ伊達」の測定は11月11日以降も毎日続けられています。



「伊達市環境放射線測定モニタリング 3000日の記録」は「支援センター」で見られます！

- ・「NPO法人環境ワーキンググループ伊達」が発表した「伊達市環境放射線モニタリング 3000日の記録」をご覧になりたい方は「伊達市市民活動支援センター」にお立ちよりください。開館時間中ならいつでもご覧いただけます。併せて、平成29年2月発表の「2000日の記録」もご覧いただけます。お気軽にどうぞ。
- ・この号でご紹介した2つの助成金についての詳細も「支援センター」にお問い合わせください。他の助成金情報も含め、いつでもサポートいたします。



伊達市市民活動支援センター

電話番号：024-583-2800 FAX：024-583-2820

○開館：毎週・月～土曜（日曜休館）

午前9時～午後6時

伊達ふれあいセンター3階まで